石津地区の年表

年表作成H30.8 嶋芳正

年号	年	西暦	共栄	共関	港	社寺	学校	石津共栄会誌	資元p/行	小川村誌	その他
明応	7	1498								大津波襲来溺死二万六千、海水小川本村の北田野辺三ヶ名に迄侵入林僧院精舎の地遂に巨海となる。	遠江浜名湖、大地震のため外港とつながる
永正	1	1504				○		石津八幡宮創建	5/4	石津、大井八幡宮を鎮座。	
弘治	2	1560							5/6	小川城主は長谷川伊賀守元長国主今川義元の幕下として従軍桶狭間に於いて戦死す	
	9										
	9	1566								信香院開山通山芳釈和尚寂	
	11	1568				○				石津八幡神社を造立す。	
	11	1568							:5/6 12/3 37/5	武田の兵火に罹り信香院,光雲寺(石津新田)全焼	
	12	1569								長谷川正長、武田に適し難く田中城を開城一族と共に徳川一族の幕下に参ず。	
元亀	1	1571									信玄・家康、三河吉田城に戦う。
天正	10	1582								徳川家康小山城(能満寺)より下街道に軍を進る時に石津の熊エ和田港口徒渉を教導し銀七文を賜る。	
	14	1586				○				信香院二代法慶禅師本堂の再築をなす、徳川家康駿府城を修築12月移る。	
											関ヶ原合戦
慶長	6	1601								小川、石津,與惣次の三村酒井備後守領となる。	
	11	1606								大井川洪水の時、会下之島辺一帯流される。本村所所の堤は当時の名残り。	
	11	1606								小川、石津,與惣次の三村、幕府領となる。	
寛永	4	1627		○						石津見地改高九百十二石四合	
	5	1628								信香院三世石陽首不が院本堂を再建、石陽山と寺号を改める。	
	5	1628								石津庄屋半次兵エ宅罹災庫書類焼滅す	
慶安	2	1649				○				石津八幡神社を再興。	
寛文	1	1661		○				木屋川田尻境より石津に回流	6/5 13/2	田尻と田尻北とに川筋争いあり、石津五郎衛門に請いて木屋川を海流して両村境にして海に落とす。	
	6	1666			○					石津見地水帳、本新合高九百十一石四党六升七石、石津庄屋半兵エ,利兵エ。	
文禄	1	1688								元禄以前は廻船諸荷和田港より焼津請うと変わる。但し公用材は従前通り和田港より移出する。	
宝永	5	1708						石津庄屋平次兵井衛宅消失す。	5/13	石津庄屋平次兵井衛宅失火村書類も消失す。	
享保	9	1724				○				石津八幡宮を改築す。	
元文	5	1740				○				石津八幡神社を改築す。	
文化	2	1805								消失せする熊野神社を再建	
							○		8/17	石津村小学校設立願い、県に提出	
	12	1815			○			石津漁業組合の全身浦祭り(船の祭り)を開始	:14/14		
天保	8	1837		○						小川汐除堤防修築	
	9	1838		○				石津の人口643人(男335女30	:15/3		
	12	1841		○					:15/4	石津村田中藩に請い堤防に、松、ぐみ各150本を移植す。	
弘化	1	1844		○				堤及び杁樋譜晋、天保年間に汐除堤防築造と植林	:15/7	石津堤杁樋修築を出願す。	
嘉永	2	1849		○	○			木屋川河口幅十間の堀明を領主に陳情		石津村田中藩に請うて和田港を堀割す。	
	6	1853		○						石津新開杁樋及び汐留堤修築	
安政	元年	1854	※	○				大地震、大津波、見取り場一帯隆起。	6/12	午前8時より強震続く、村内亀裂生ず。戸外に避難宿泊各所の竹藪振う。	日米和親条約締結、 諸国大地震、駿河・遠江・伊豆・相模の被害甚大
	4	1857		○				新海波除土手構築、よし組と称し開墾着手。未墾地は石津村有となる。	:16/2		

年号	年	西暦	共栄	共関	港	社寺	学校	石津共栄会誌	資元p/行	小川村誌	その他
文久	1	1861			○	○		水天宮の全身石祠建立	:16/6	江戸深川木材誤用材商、野口正三郎、大井川上流信州地より出材し、木屋川を流し石津パラジマを木材置き場にして、船で海上輸送した。こ れに伴い、守護人として江戸水天宮の分神を祀り石祠を建てた。	明元、明治改元
明治	4	1871						小林全左衛門戸長となる	:16/18		庄屋、名主制廃止、廃藩置県、新貨幣制度
	5										5太陽暦採用、5徴兵令布告、6地租改正条例布告
	9						○	石津村小学校設立願い、県に提出	8/17		
明治	13	1880		○				新海開墾を八木氏卒先着着手。	:18/1		明7、大井川仮橋仮設、蓮台越し廃止。
	14	1881					○	小川新開堤内に小学校貫誠舎を建つ	6/18		
							○	石津村会は石津学校学資金募集規定を議決す	18¥9		
明治	16	1883	※	○				石津総戸数172戸。石津よし組四組編成し石津共有とす。	18/12 22/5		明9廃刀令発布 明10、西南戦争勃発。
	16	1883					○	石津黄学舎新築落成(石津学校)	18/14		
	17	1884					○	石津村、与惣次村間に石津学校経費賦課契約調印	19/13		
	17	1884	※					小川村となる,初代村長:向坂実治朗	:19/10		
明治	17	1884		○	○			見取場下流に排水路と逆水門二箇所を創る。 石津漁業組合発祥。地元船に本田船、惣五郎船、斧右衛門、又兵衛船、勘右衛門、元吉船、新船、惣右衛門、前左、忠宇兵。衛門	:19/4		明13木屋川通船会社、和田港に設立
明治	18	1885						池谷街道(静浜街道)解説。旧150線に近い	:19/14		
	19	1886					○	小学校令の発布により貫誠舎を尋常小学校小川校とす	:19/20		
	20	1887						小川村農会創立	:20/1		
	20	1887	※	○				5カ年開墾計画荷全力を上げ、この間逆水門も増設、目的を間遂し、成功地小作料84表1斗四升を得るに至った。	:20/3 20/19		明21帝国憲法発布
	21	1888		○		○		石津村所有地、宅地900平米水天宮に寄贈	:20/7		
明治	22	1889		○				小川村に合併。	:20/9 53/1	小川村、石津村、与惣次村合併で小川村になる。石津は8句北川原・新田)、九区(向島)、十区(下島・本田島)十一区(浜地区)。一区～七区は小川・与惣次。	明23第一回帝国会議 教育勅語下賜
明治	24	1881		○				見取場逆水門2ヶ所作る。	:20/15		
明治	25	1882		○				アラマキ島水門1ヶ所建造	:20/17		
	29	1886		○				前坪逆水門1ヶ所建造	:21/6		
	31						○	小川小学校を下川原の現位置に移転す	:21/9		
	22	1889								村制施行により益津郡焼津村が発足	村制施行
	32	1889		○				石津小林敏好村長就任	:21/11		
	30	1897								小泉八雲初めて焼津に訪れる	
	34	1901								町制施行焼津町となる	町制施行
	36	1903								焼津漁港組合を設立	
明治	37	1904		○				よし組に村税戸数割の百分の十二を補給。	:22/4		
	39	1906					○	石津学校は廃校となり小川小学校に統合	:22/13		
	39	1906		○				石津石崎戸吉村長就任	:22/16		
明治	42	1909						吉永街道(焼津榛原線)開通	:23/4		小川新地電話開通

年号	年	西暦	共栄	共関	港	社寺	学校	石津共栄会誌	資元p/行	小川村誌	その他
明治	44	1911			○		○	石津漁業組合所属地元船。新船、松兵衛、下船、元吉船、又兵衛船、丸平、和多屋、	:23/10		石津戸数213 人口1306人
大正	6	1917		○	○			外新海を養魚場として八木氏に貸与。	:24/16		
大正	9	1920		○				石津共同精米組合開業。	:25/2 :9/6		
	14	1925		○				小林敏好村長就任	:25/7		
昭和	8	1933		○				小八宮北関の養魚場を埋め立て、新宅地造成。舟溜まり開設	25/16		
昭和	12	1937			○			小川・石津漁業組合合併、小川村漁業組合となる。	48/15		
	14	1939		○				地元農家のため籾摺り事業を開	:26/10		
	16	1941		○				石津共有財産謝恩会開催	:26/11		
	21	1946	※	○				農地改革が実施され、地主は一網打尽にその土地を没収された。石津共有も多年育成したこれによって買収され、大打撃を受けたが、未墾の荒地や田以外の土地が残存していたのでそれによって後年の活動を支えるこ	:2714		昭21代0次農地改革実施
昭和	22	1947	※	※				石津共有をっ発展解消、石津共栄会を設立。	:27/18		
	22	1947		○	○			漁業建設の機運が起こったため見崎平吉氏との養魚場賃貸契約を解滯除した。その為、解約金15万円を同氏に支払い。	:2811		
	23	1948						アイオン台風の襲来			
昭和	26	1951		○	○			小川港開設工事着工。見取場を埋め立て区画整備をして宅地造成。丘公会堂落成。	:28/11 :52	**市制施行で焼津市になる**	市制施行
	26	1951		○				四国より菅野医師を招聘、旧公会堂を譲渡して開業。	:29/2		
	29	1954		○		○		見取場埋立地600坪を八幡宮基本財産として寄附。	:29/16		
昭和	30	1955		○						焼津市に合併	
昭和	35	1960	※	○				浜公会堂落成。	:30/19		
昭和	38	1963		○				水天宮南パラジマ区画整理開	:8/13		
昭和	41	1966		○			○	見取場の一隅に市立第二保育所建設せらる。	:31/14 :9/12		
	43	1968		○				共栄会誌発行			
	46	1971					○	港小学校設立			
	48	1973		○				石津2204 10区画賃貸開始			
	48	1973					○	港中学校設立			
昭和	54	1979	※	○				石津共栄会財団法人化			
	56	1981		○				港公民館設立			
	3	1991		○				利用部精米所休止			
	4	1992		○				前の川沿いの新宅地の線引き			
平成	4	1992		○				財政困難のため宅地25%値上			
	4	1992		○				丘公会堂移転保障(南部区画整理組合)			
	4	1992		○				防災センター寄付900百万円			
平成	5	1993		○				第一駐車場開設			
平成	6			○				第二駐車場開設			
	7			○				前の川補修工事			
	10			○				新風寮落成			
平成	17			○				浜公会堂屋根改修			
	20	2008		○						焼津市、大井川町を編入	
平成	22	2010	※	○				石津共栄会認可地縁団体化			
平成	25			○				浜公会堂外装工事			
平成	26			○				第五駐車場開設			
	26			○				浜公会堂天井改修工事			
平成	28	2016		○				ホール窓アルミサッシに改修			
平成	28	2016		○				ここ数年来より公会堂使用状況の減少で推移利用料金10万円を割る			
平成	29	2017		○				石津の変遷の編集			

年号	年	西暦	共栄	共関	港	社寺	学校	石津共栄会誌	資元p/行	小川村誌	その他
平成	29	2017		○				港小・中。公民館に石津の民俗/共栄会誌/石津の変遷を各2冊寄贈			
平成	29	2017		○				焼津市の地籍調査浜・港町			
平成								第三駐車場開設			